



～ 高学年のみなさんへ ～ 2024



夏休みに この本を！

白井市立図書館

お蚕さんから 糸と絹と



大西暢夫/著 (アリス館)

絹製品の原料になる生糸を得るため、カイコを飼育することを、養蚕といいます。滋賀県内でも有数の養蚕地だった集落で、今もお蚕さん（カイコ）を育てている農家は軒だけになってしまいました。お蚕さんが生み出した繭は、多くの職人さんの手を経て、絹製品や真綿になります。文や写真から職人さんのお蚕さんへの愛情が伝わってきます。

2024 高学年

女の子でも総理大臣になれる？国会への道



辻本清美/著 (偕成社)

国会議員 辻本清美さんの、「もっと政治に関心をもって欲しい」「政治家を増やしたい」そんな思いがあふれた1冊です。辻本さんの子ども時代から、政治家になるまでのこと。どうして政治家になったのか。政治家はどんな仕事をしているのか。そして、日本には女性の国会議員が少ないことへの考えが書かれています。

2024 高学年

かじ屋と妖精たち イギリスの昔話



脇明子/編訳 (岩波書店)

有名な「ジャックと豆の木」「三びきの子ブタ」のお話や、大冒険物語「鳥の合戦」など、31編を収めた昔話集です。「鳥の合戦」は、ヘビと戦う渡りがらすを助けた王子さまが、渡りがらすの翼に乗って、空を飛ぶところから冒険が始まります。

2024 高学年





自分の力で肉を獲る



千松信也/著 (旬報社)

この本は、実際の狩猟のやり方や動物の解体方法、獲った肉の料理の仕方を紹介しています。少年の頃から、自給自足の生活にあこがれていた著者の生き方からは、命への感謝や自然への敬意が感じられます。狩猟は、大人になってからしかできませんが、著者は、自然環境や山の動物たちのこと、自分の食べ物のこと、他の生命をいただいて生きるといふこと、などを伝えたい、と語っています。

2024 高学年

博物館の少女 怪異研究事始め



富安陽子/著 (偕成社)

時は明治、大阪の古物商の娘イカルは両親を亡くし、東京の親戚に引き取られました。初めての東京、上野の博物館で、鑑定眼を認められ、怪異の研究をしている、織田賢司 (=通称トノサマ) の手伝いをすることになりました。トノサマの指示で古い蔵の整理を始めますが、収蔵品の「黒手匣」の盗難事件に巻き込まれてしまいました。

2024 高学年



ほかにも読んでみよう！



『故郷の味は海をこえて』	安田菜津紀/著・写真	(ポプラ社)
『こちらゆかいな窓ふき会社』	ロアルド・ダール/作 ケンティン・ブレイク/絵 清水達也・清水奈緒子/訳	(評論社)
『しずくの首飾り』	ジョーン・エイキン/作 ヤン・ピアンコフスキー/絵 猪熊葉子/訳	(岩波書店)
『生物の消えた島』	田川日出夫/文 松岡達英/絵	(福音館書店)
『トイレのおかげ』	森枝雄司/写真・文 はらさんぺい/絵	(福音館書店)
『ナタリーはひみつの作家』	アンドリュウ・クレメンツ/作 田中奈津子/訳 伊東美貴/絵	(講談社)
『名もなき花たちと』	小手鞠るい/著	(原書房)
『ぼくの先生は東京湾』	中村征夫/写真・文	(フレーベル館)
『みんなでつくる！本の辞書』	飯田朝子/文 寄藤文平/絵	(福音館書店)
『山をつくる』	菅聖子/文	(小峰書店)

